

課題









色
 くれ
 くれ
 色
 しるべ



鳥の千歳とつらん
 津の國の上れ妓女あり
 名羽院あらんあがり
 あり白拍子とつらん
 ありふ歳と物とす
 あり人るる事 借長よ
 あり

あまを
 雨雲れ
 くれの
 くれの
 くれの
 くれの
 くれの

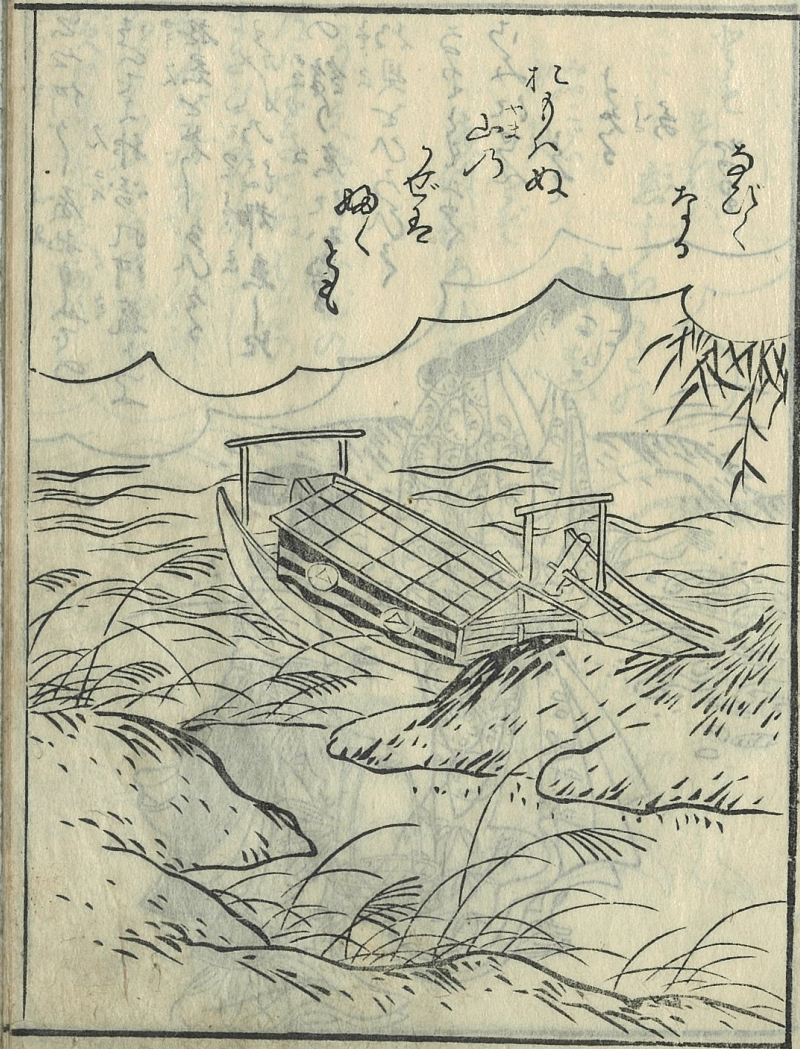
上ノ三



上ノ四



上
 五







をんまらうし
 くく半賣
 らねわを
 とんるれ
 くらがらう
 といゆ一先の
 きしん也
 くらん
 まきとひれ
 くらん
 くらん
 くらん



登に耳石れお
 世の中とる人れは
 上戸があらぬ
 子守人ぞと
 目代金けを
 いはれは
 同小落は上格
 に落るきぐ
 ひ七人のみ
 いるすとも
 おんるふら
 とゆるけを











下ノ六



下七





課題

教訓歌三十六首

世にやまひの心はあはれ
 つのゆへにのれちまふも
 幸ふの心を深くとくめて
 こそ何事もあつてはれめ
 我が心はの悪はのくか
 かなして福いぬふあま
 後とつてそのありにさそを
 なくはひかきまらさ
 心はくく今さごとお人
 のつかせよとあまの
 三三言や若紙青きと
 親者かへけあつても
 大業のひにせわしむ
 いのち正月後りの妻
 今まきのあはれも人せ
 人ふかまふ人ふか
 心はくく今さごとお人
 のつかせよとあまの
 三三言や若紙青きと
 親者かへけあつても
 大業のひにせわしむ
 いのち正月後りの妻
 今まきのあはれも人せ
 人ふかまふ人ふか

皇太后文太後成

世乃中よ

くらこも
 おりい
 志のせたくさる



若原清輔朝長

まぐく入るま
 けごんやま
 うしとせぞ
 今まきのあはれも人せ



後直法師

後直法師
 けりんがう
 けりんがう
 今まきのあはれも人せ



西行法師

まあくとて
 おりい
 けりんがう
 わのまきさうわ



課題

教訓歌三十六首
 五言古体 勸戒 萬葉集の
 一、西の風の吹くちまも
 幸来ゆふの影を深くともぬて
 心を何事もあつてはしめ
 我らふ人の思はれのうかが
 かなふて福はぬかあはるき
 後とてそのあつたさをせ
 々々ふむかきまらむまに
 血なすりく穿すとふ指人は
 わづかそとせもあつたはら
 二、高き山は高き山なり
 親孝か人のあつても
 大業の口にそのおとをたは
 いれと正月はつりのま
 人まはる人の中にも人ぞめ
 人まはる人かかぬ人

勸戒の詞の体はあつては
 かと若しは歌とせしむ
 勸戒の詞をいかにせむか
 のも人をいかにあつては
 若しんて若しんては後の門
 ころころのせむかあつて
 勸戒をせむかあつては
 心のすまひにあつては
 我らをかみのつたにあつて
 こころのつたにあつては
 人まはる人かかぬ人
 あつてはあつてはあつて
 あつてはあつてはあつて
 あつてはあつてはあつて
 あつてはあつてはあつて
 あつてはあつてはあつて
 あつてはあつてはあつて
 あつてはあつてはあつて